提　言

～高砂市歴史文化基本構想の実現に向けて～

本構想は、「文化審議会文化財分科会企画調査会報告書」で提言された方針に基づき、文化財保護担当部局とまちづくり担当部局等が連携協力し、市民、市民団体等の参加を得て、歴史文化資源を核にその周辺環境も含めた地域全体を総合的に保存・活用していく一貫性のある取組みを行うために策定したものである。

こうした取組みを支援する制度として、文部科学省（文化庁）、農林水産省、国土交通省共管による「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）」があり、平成 20 年（2008）11 月から施行されている。高砂市では、平成 15 年 3 月に兵庫県教育委員会がとりまとめた「歴史文化遺産活用構想」をふまえながら、文化庁の「文化財総合的把握モデル事業」の採択を受け、平成 20～22 年度にかけて、本構想をまとめた。

高砂市の長い歴史と文化からは、おおむね 4 つのテーマ設定が可能であろう。それは、高砂市の原風景、歴史的景観を語る「白砂青松」、古代から現代に連綿と続き多様な広がりを持つ「竜山石の文化」、高砂町を中心にした流通と交易の場「みなとのまち」、そして浜辺に展開した生活の基盤となる「塩づくり」である。これら歴史文化のテーマは、地域がもつ財産や知恵を読み取る術として活用でき、地域再生への手がかりとなる。前述した 4 点は高砂市だけがもつ歴史文化的な価値、または「高砂らしさ」ではあるが、そこには歴史を生きる人々がからみあうことで、いっそう彩（いろどり）を増す。

たとえば、江戸時代後期になると、みなとのまちを中心に、各地の港湾土木事業に貢献した工楽松右衛門や、独創的な科学的思想をうみだした山片蟠桃らを輩出した。こうした背景の中で、庶民教育が広まり、そのための学舎、申義堂が開設された。教育や地域づくりに貢献してきた人々の墓もいまに伝えられている。

高砂市域には、固有の風土に培われた景観が残されてきた。愛着をはぐくみ、ふるさと感を醸し出す景観のもとで、先人たちは価値を見いだし、有形無形の文化財が残されてきたといえる。

これら、「もの」「ひと」「景観」と、歴史文化のテーマがからまって、まとめられたのが本構想である。

次に、本構想の具体的な取組みを提言する。

１．高砂市の歴史的背景をふまえて、いまを生きる地域住民が、新たな価値を生

み出す「ふるさと文化財」制度を創設し、高砂市の「お宝」さがしを通して、「たかさご学」を展開していくこと。

2．先人たちの残した業績と未来への展望をもとに、これからの社会を担う子どもたちや市民のくらしを導いていくような場づくりに加え、人づくりを社会全体で育んでいくこと。

3．市民、企業、行政等の各担い手が主体的に参加し、多種多様な「価値」の再確認のもとで、地域再生への取組みを行うこと。

4．本構想の実現を図るために、具体的な実施計画を立案すること。

・導入事業については文化庁新事業などの活用により事業展開を検討すること。

・高砂みなとまちづくり行動計画と連携し、本構想の反映を検討すること。

・これらをもとにして適切な事業を活用し各事業計画段階の具体化を検討すること。

5．推進体制を整備すること。

・「高砂市歴史文化基本構想推進協議会（仮称）」を設置し、高砂みなとまちづくり構想推進協議会との連携を検討すること。

・文化財調査専門部会を発展継承した、「高砂市歴史文化基本構想推進協議会」の部会設置を検討すること。

・文化財保護部局とまちづくり部局が連携すること。

以上、本構想で示した考え方は、これからの高砂市の地域づくりに活用できるもので、市民、企業、行政等の各担い手の立場で可能なところから検討していただきたい。

さらに、本委員会では、前記４つの歴史文化テーマごとに取組み内容を「試案」として作成した。参加者によって、そのいくつかが「検討項目」のような形で採用される。それは計画段階に応じたプランのなかで、それぞれに取組むべき参加者と支援する部局との調整をもとに、はじめて本事業の前進が図られることになる。

最後に、本構想の策定にあたっては、関係各位の協力、支援を得ることができた。ここに記して感謝します。

高砂市歴史文化基本構想等策定委員会
委 員 長　　北 垣　聰一郎
副委員長　　八 木　　雅 夫

別表

高砂市歴史文化基本構想等策定委員会　試案

歴史文化テーマ	検討項目	比較的早く取組む内容	将来取組む内容	将来の目標として目指す内容	参加者
竜山石	石の宝殿の保存活用	公開に伴う環境整備、ボランティアガイド 史跡指定に向けた関係機関との調整	周辺のサイン・ガイダンス機能の設置 高砂まちあるきの起点として活用	史跡指定	国・県・市・市民・市民団体・企業等
	竜山石切場の保存活用	分布調査の実施継続 石切の体験活動	文化的景観に向けた調査、景観保全に向けた調整 ミニ産業に向けた勉強会	文化的景観指定 ミニ産業の実施	
	竜山石資源の再発掘	所在調査の実施継続 ふるさと文化財登録	資源のまちあるきへの活用	重要な資源の文化財指定・登録	
	竜山石資源を巡るまちあるき等の活動	まちあるきの実施	まちあるきマップの作成 他テーマの資源と組合せたまちあるきコースの開発	流通・生産に関するルートの環境整備 他テーマの資源と連携したまちあるきの実践	
	流通先各地との交流	流通先の調査	流通先各地との交流	竜山石サミットの開催 他地域の石産業を持つ地域との交流	
白砂青松	記録掘り起こし活動	民俗・文献・近代化遺産等の調査 ふるさと文化財登録	海岸部の近代化遺産の再発掘 海岸部の資源のまちあるきへの活用	重要な資源の文化財活用 他テーマの資源と連携したまちあるきの実践	
	「なぎさ」の再生	あらい浜風公園、高砂海浜公園のまちあるき	「白砂青松」について企業との連絡会開催	「白砂青松」を感じさせる周辺整備	
塩づくり	記録掘り起こし活動	調査の継続 （製塩集落の調査など） ふるさと文化財登録	まちあるきへの活用	重要な資源の文化財活用	
	技術の伝承	技術の調査、学習会	歴史的建造物などを活用した伝承拠点づくり 他の環境を活かした技術や産業の調査	拠点での製塩体験 他の環境を活かした技術・産業の伝承活動	

歴史文化テーマ	検討項目	比較的早く取組む内容	将来取組む内容	将来の目標として目指す内容	参加者
みなとのまち	まちのお宝探し	ふるさと文化財登録 調査の継続（建造物、祭礼など）	まちあるきへの活用	重要な資源の文化財活用 市外住民も参加したふるさと文化財登録	国・県・市・市民・市民団体・企業等
	まちづくり計画づくり	地区住民による勉強会との連携	まちづくり計画の検討	まちづくり計画の実践	
	景観などの魅力づくり	高砂地区景観形成地区での景観保全 祭礼等伝統文化の継承	高砂地区以外のまちの景観形成に係る勉強会 祭礼など伝統文化に携わる担い手育成の支援	高砂地区以外のまちの景観形成地区指定 歴史的建造物の小修理、修景支援方策の創設	
	歴史的建造物の拠点活用	花井家住宅（高砂）の活用実践 旧入江家住宅（曽根）の活用検討 申義堂（高砂）の復元、活用検討	旧入江家・花井家住宅のまちづくり拠点活用 その他地区の象徴的な歴史的建造物の活用 申義堂を学び舎としての活用 企業と連携方策の検討	その他歴史的建造物の活用展開 歴史的建造物の修復整備 企業による支援方策の確立（基金の設立など）	
	空き家等活用	活用に向けた方策の検討	活用に向けた市民団体や企業との勉強会	情報発信・斡旋等の推進組織始動 企業活用の検討	
テーマ共通	学習プログラム	副読本の開発・改訂	市民団体等と連携した学習プログラムの開発	市民団体等と連携した学習プログラムの実践	
	ふるさと文化財制度	制度の創設 各テーマに基づくモデル的な登録	情報発信、活用手法検討 継承の担い手の検討	まちづくりへの活用 継承の担い手育成の制度の創設	
	まちあるき	各テーマごとのコース開発、実践	各テーマが連携したコースの開発、実践 まちあるきマップ等の作成、情報発信	各テーマが連携したまちあるきの恒常的実践 コースの環境整備、情報発信（まちかどﾐｭｰｼﾞｱﾑなど）	

【巻末資料】歴史文化基本構想策定の実施体制と経過

1．構想策定の体制

【高砂市歴史文化基本構想等策定委員会の構成】　　平成21年1月1日～平成23年3月31日

役職名	氏　名	所　属	備　考
委員長	北垣 聰一郎	石川県金沢城調査研究所所長	学識経験者
副委員長	八木 雅夫	国立明石工業高等専門学校建築学科教授	
委　員	喜始 彦明	高砂市文化財審議委員会委員長	市民代表
委　員	渡辺 健一	高砂商工会議所会頭	
委　員	西中 亮二	高砂市観光協会会長	
委　員	前田 栄一	高砂市連合自治会会長	
委　員	石野 博信	兵庫県立考古博物館館長	学識経験者
委　員	和田 晴吾	立命館大学文学部教授	
委　員	藤本 真里	兵庫県立大学自然･環境科学研究所助教	
委　員	藤原 清尚	市立小学校元校長、元高砂市教育委員会文化財担当	
委　員	村上 裕道	兵庫県教育委員会社会教育課文化財室長	行政関係
委　員	大町　勝	兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課長	
委　員	山田　健	兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所まちづくり担当参事	
委　員	金子　博之	高砂市まちづくり部長	
委　員	中村　正登	高砂市生活環境部長	
委　員	堀江　保充	高砂市教育委員会教育指導部長	

※川端 宏幸（兵庫県県土整備部まちづくり局都市政策課長）　平成21年 3月31日まで
　植村　裕（兵庫県東播磨県民局県土整備部まちづくり担当参事）　平成21年 3月31日まで
　加古 捨一（高砂市連合自治会副会長）　平成21年 5月31日まで
　木下　孝（高砂市教育委員会教育指導部長）　平成21年 5月31日まで
　北野 康弘（高砂市教育委員会教育指導部長）　平成21年 6月 1日から8月6日まで
　新木　茂（高砂市まちづくり部長）　平成22年12月31日まで
　岡田　章（高砂市生活環境部長）　平成22年12月31日まで

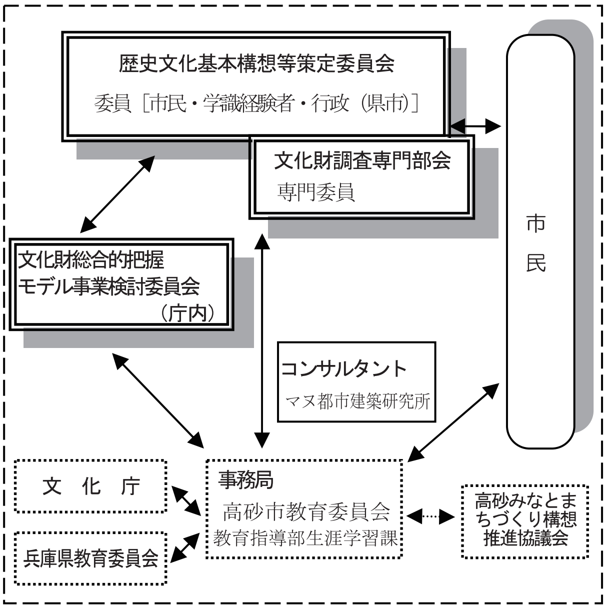
【文化財調査専門部会 専門委員の構成】

氏　名	所　属	調査担当	氏　名	所　属	調査担当
中村　弘	兵庫県立考古博物館主査	史跡・景観	唐津　哲男	高砂歴史ガイドクラブ会長	墓石
魚津　知克	大手前大学史学研究所研究員		藤原　良夫	加古川市文化財審議委員会委員	石造物
福井　亘	京都府立大学大学院講師		曽根　文省	曽根天満宮宮司	民俗
尾瀬　耕司	神戸建築文化財研究所主宰	建造物・まちなみ	横山奈央子	あかりの鹿児資料館学芸員	
吉田　文男	ひょうごﾍﾘﾃｰｼﾞ機構Ｈ２Ｏ東播		先山　徹	兵庫県立人と自然の博物館主任研究員	岩石
渡辺　昇	兵庫県立考古博物館課長補佐	墓石	田寺　典似	元高砂市市史編さん専門員	文献
高原　孝明	竜山石文化会代表		歌井　昭夫	高砂・古文書の会代表	

【文化財総合的把握モデル事業検討委員会 委員の構成】

教育指導部次長	生活環境部　環境政策課長
企画総務部　経営企画室　総合計画担当主幹	生活環境部　市民活動推進課長
財務部　資産税課長	生活環境部　産業振興課長
財務部　財政課長	まちづくり部　まちづくり推進課長
財務部　契約管財課長	教育指導部　生涯学習課長

2. 構想策定の経過



【平成20年度】

6月12日　文化財総合的把握モデル事業計画書を文化庁へ提出
8月20日　第1回文化財総合的把握モデル事業検討委員会
8月29日　文化財総合的把握モデル事業採択通知
9月8日　第2回文化財総合的把握モデル事業検討委員会
1～3月　文化財調査の実施（建造物・まちなみ、史跡、墓石）
1月20日　第1回歴史文化基本構想等策定委員会
2月12日　第1回文化財調査専門部会
2月16日　第3回文化財総合的把握モデル事業検討委員会
3月19日　第2回文化財調査専門部会

【平成21年度】

4～3月　文化財調査の実施（史跡、建造物・まちなみ、石造物、墓石、民俗、岩石、文献）
5月18日　第2回歴史文化基本構想等策定委員会
7月14日　第3回文化財調査専門部会
8月27日　第3回歴史文化基本構想等策定委員会
9月11日　高砂みなとまちづくり推進協議会 第16回歴史ミュージアム部会
9月26日　たかさご万灯祭街頭アンケート
10月7日　第4回文化財総合的把握モデル事業検討委員会
11月3日　あらい浜風公園フェア街頭アンケート
11月17日　第4回歴史文化基本構想等策定委員会
12月8日　第4回文化財調査専門部会
1月26日　第5回文化財調査専門部会
2月14日　文化財調査報告会 ・高砂まちあるき in 曽根
2月24日　第5回歴史文化基本構想等策定委員会

【平成22年度】

4～5月　市民ギャラリー展示「文化財調査とまちあるきin曽根の報告」
5月11日　第6回文化財調査専門部会
6月2日　第6回歴史文化基本構想等策定委員会
6月23日　高砂みなとまちづくり推進協議会 第18回歴史ミュージアム部会
7月13日　高砂まちあるき in 荒井・今市（荒井・伊保・曽根地区学習会との意見交換）
9月15日　第7回歴史文化基本構想等策定委員会
9月25日　たかさご万灯祭まちあるき
10月28日　第7回文化財調査専門部会
12月2日　第8回歴史文化基本構想等策定委員会
12月27日　第5回文化財総合的把握モデル事業検討委員会
1月24日　第8回文化財調査専門部会
2月8日　文化庁主催歴史文化基本構想シンポジウム高砂会場
2月12日　歴史文化基本構想市民フォーラム「歴史文化を活かしたまちづくりに向けて」
3月2日　第9回歴史文化基本構想等策定委員会

高砂市歴史文化基本構想

平成２３年３月

高砂市教育委員会

〒676-0082　兵庫県高砂市荒井町千鳥１丁目１番１号

TEL　079-442-2101